

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 8月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501168		
法人名	医療法人社団 和恒会		
事業所名	グループホーム ふたばの家		
所在地	広島県呉市広白石4丁目7番30号 (電話) 0823-76-4566		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501168-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470501168-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年8月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

全職員が情報を提供し合い、一人ひとりの利用者様の自立、見守り、介助の必要性を見極め介護にあたっている。また、役割を持ってもらい、利用者様と職員が協力して日常生活を送っている。季節を少しでも感じて頂けるように、毎日2回買い物に出掛ける際、必ず入居者様に声を掛けている。また季節に合わせて、入居者の皆様に展示作品も作って頂いている。医療に関する面においても母体の医療法人の医師と看護師と連携をとることにより、日々の体調管理、病気の早期発見に務めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体の医療法人との連携により、日々の健康管理を図り、毎日の体操、買い物などを通して、利用者の身体機能の維持に努めている。事業所内は、利用者の作品などで季節に応じた飾り付けがなされ、明るく心休まる生活空間となっている。食事は、近くのスーパーへ毎日2回の食材の買い出しから調理までを利用者と職員が一緒に取り組んでいる。職員間のコミュニケーションの良さから、働きやすい職場である。以前の生活（料理・買い物・洗濯物を畳む・掃除など）が継続できるように、職員は利用者寄り添い対応されている。職員は常に職員の都合ではなく、相手の立場、本人の立場になって物事を常に考え対応されている。今後も外出企画を増やし、地域との交流、身体機能の維持に努めていきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念として①我が家にいるような心地よさと安心を提供するケアに心がける②入居者と共に楽しい日常生活が送れるように工夫する③地域の活動に参加ができるよう支援する、の3つを掲げているが、③の地域の活動に参加は家族の協力のある方に限り行っている。	新年互礼会で、理事長から、事業所としての目指すべき方向性などの話がある。法人目標として、3ヶ月毎に目標が作られ取り組んでおり、開所当初の理念を掲げ、共有しながら実践している。	法人目標として、3ヶ月毎に目標が作り上げているが、振り返りができていない状況があります。今後は、振り返りを行い、職員間で話し合い、年間目標などを作り上げ、理念と照らし合わせながら、日々実践されることを望みます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会長や民生委員様とは会議を持ち法人全体としては防災協定を結んでいる。施設紹介を地元住民に行う等の交流を行っているが、現状利用者と地域のつながりという点に関しては課題がある。	街中であり、地域との関わりが難しい状況もあるが、運営推進会議の参加メンバーとの関わりにより、地域の皆様と顔なじみの関係ができるように努力している。今後は、外出企画を増やして、交流を図る取り組みを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議に参加いただいた地域の方には実践状況をお伝えさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活かしている。認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護など他施設と合同で行っており、通所での対応をグループホームでも参考にしたりとサービス向上に繋がっている。	歩行能力が低下された方がおられ、参加者からアドバイスを頂いたことがある。様々な機関が集まるなかで内容としては、利用状況、活動内容を報告し行っている。家族参加が少ない状況を受け、昨年（H28）より、事業所で”夏祭り”を開催した経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にも来て頂けるよう声をかけたり、質問事項等ある場合には窓口にて直接伺ったりもしている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加されている。市担当者から、空き状況など問い合わせがある。必要時には電話連絡、直接窓口で相談し、協力関係が築けるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠に関しては日中の車通りの多さを勘案し施錠させて頂いている。テラス部分に出る事ができるサッシ窓には鍵をしておらず、自由に出入りができるようにしている。</p>	<p>歩行が不安定な方には、鈴やセンサーを活用し、行動を把握するように努めている。社内研修は、年1回行い、月1回のミーティングを通して確認・見直しをしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止についての徹底を行っている。また頻繁に声かけの仕方など利用者が不快になるような声かけの仕方に注意し小さな問題から解決していけるよう心がけている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>毎年施設内研修には取り込んでいる。活用事例は今のところないが、該当する方もしいれば積極的に活用してみたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時には様々な情報が一度に契約者に入る為説明後何か聞いておきたい事や伝え忘れ等ないか必ず一緒に確認している。改定の際には文書通知と来所頂いた際には管理者在籍の場合は口頭で何か疑問はないか確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情箱を施設内に設置しているが、少人数と言う事もあり中々利用する方はいらっしゃらない。第三者の苦情窓口が別にあるのでそちらに電話して頂けるようになっている事を契約の際説明させて頂いている。</p>	<p>駐車場の台数に限りがあるため、車両許可書を作成し、法人の駐車場を自由に駐車できるようにした経緯がある。毎月、請求書と一緒に、ホーム便り・ホームでの生活状況用紙を送付している。意見などあれば、申し送りノートを活用し、1日2回の申し送りなどで話し合いをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送りや毎月のミーティングの際に出た意見をできるだけ反映させるように働きかけている。</p>	<p>毎日、勤務者が職員の個人目標を管理日誌に記載している。利用者の重度化を受けて、今年（H29）1階リビングのトイレを車いす使用可能なスペースへ改修をした。日々疑問などあれば、月1回のミーティングや毎日の申し送りなどで情報を共有している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>給与水準、労働時間などは上司との相談の上決定している。各自が業務分担もつい自分の得意な分野でやりがいをもって働いているように見受けられる。時間内には業務が終了できるよう留意している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修情報等回覧版などを使って広報を行っている。また法人内の他施設が行っている研修を合同で行っておりそちらの方への参加も呼びかけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>特に代表者による指定はないが研修については積極的に研修体制も整っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>平成29年度より入居された2名の利用者に関して言えば認知症状も軽度だったこともあり、本人様が不安な部分を意思表示できたこともあり関係作りもスムーズに行う事ができた。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	特に入居前のご家族は環境がガラッと変わったり、病院の入退院に関わっていることも多く疲弊している印象を受ける。まずはゆっくりと本人の様子や家族の困っていることに傾聴し、加えてご家族様が一番無理をなさらない様にと声かけを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応の見極めと支援は行っている。他のサービス利用も何もない方にはまず、本人さんの精神的な負担も考慮し、緊急性、医療ニーズ等がない場合は居宅サービスや宿泊が希望の場合はまずはショートステイ等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	スタッフは掃除や洗濯、食事作り等本人の状況を踏まえた上で声かけを行い、一緒に行っている。毎日の日課を一緒に行う事で変化により早く気づく事が出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様の希望にもよるが、面会の少ない家族様にはなるべく支払いや入金の際に事業所に来ていただき本人と面会して頂いている。またここに入所する事で空いた時間を利用して習字のボランティアに来て頂いているご家族もいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	散髪など家族の協力が得られる方には馴染みの美容室に行ったり、事業所だけでは難しい事も家族様と協力できる部分は協力して外出や外泊等にも取り組んでいる。	体験入居（3泊4日程度）もあり、入居前の利用者の状態把握を行い、できる限り情報収集を行っている。家族の協力を頂き、外出・外泊、散髪や食事などに行かれている。知人や家族面会時は、2階の本人の居室でゆっくりと過ごせるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	努めている。また、日々の申し送りで利用者同士のトラブルについては情報共有をしてトラブルを未然に防げるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ法人での転居というケースもあり、そういったご家族とは関係性が続きやすい環境ではある。以前入居されていた入居者のご家族とあってお話を聞いたりということもある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。日々の業務の中からも一人ひとりの意向や希望が隠れており意思表示が出来る方には家族と協力して出来る限りの対応をさせていただいている。困難な場合には努めているが、十分でないと感じる事もある。	「散歩に行きたい、買い物に行きたい」本人の想いを聴いている。日々の会話や行動などは個人ファイルに丁寧に記録し、職員全員が共有している。利用者個々の希望や意向は反映され、可能なことは実現できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のお話は勿論、入居して本人から出てくる言葉を大切にしている。サービス利用の経過などは医療機関や介護施設等からいただいた情報からも経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今年度より、入居者様に対する支援状況の把握と職員の支援をするという意識付けの為にチェックリストを作成した。チェック実施後は日々の支援の偏りや特定の人に対する支援のなどが可視化できた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族よりは本人の意向や現状課題の方が一緒に生活している分反映されているかと思う。適宜家族様に確認はしているが、落ち着いて穏やかに生活して頂ければと言うニーズが多い。また医療面では医師、看護師にアドバイスいただいた内容が反映されている。</p>	<p>本人主体の計画づくりに努めている。個々の役割づくり（掃除・洗濯物を畳む・調理など）を通して、日々の生活が遣り甲斐、生きがいがづくりに繋がるように、本人の状況を把握しながら家族に意向を聴いて、プランの作成を見直している。また医療面では、医師や看護師にアドバイスを頂いている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別記録への軽微な事案についての記録は残していないのが実情であるが、特変だけでなく日々の何気ない利用者の変化等を申し送りし合う土壌はできている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>面会に中々これない、家族も高齢である為個人物品の買物が難しい、などのケースには事業所側が積極的に代行で買物をする等おこなっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用においては課題あり、家族の協力も得て書道ボランティアに来て頂くなど豊かな暮らしという部分に力を入れている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>運営母体が医療法人という事もあり、可能ならばふたば病院という家族様が多い。月1回の受診や定期検査など主治医にお願いしており関係性を築いている。</p>	<p>急変時や日々の連携のこともあり、運営母体の協力病院がかかりつけ医となっており、定期的な受診や看護師が週に1回訪問されており、適切な医療が受けられる体制が法人内で整備されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>急な体調不良時には相談できる体制が整っており、この度管理当直制度を設置された事によって夜間も急変時看護師の指示を受けや場合によっては来所して状況確認をしてもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会可能であれば入院先に見舞いに行きお話を伺って情報把握に努めている。また他院への入院のケースでは主治医が受け入れ先に紹介状を書いているケースも多く、主治医より情報をいただくこともある。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>立位が保持できなくなった場合には退居となることを入居前に話している。その為事前に家族に具体的にそうなった時の希望をうかがっている。またまだ他の施設へ申し込みしていない場合は申し込みや見学だけでもと勧めている。</p>	<p>医療行為ができないため、看取りはしない方針としている。立位保持ができなくなった場合には、退去となることを入居時に話している。重度化に向かう事例がでた場合はその都度、話し合いを重ねての対応としている。職員は、利用者が重度化にならないように日々取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>新人研修、施設内研修など年に1回は必ず急変時対応に備えて確認している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災に関しては年2回消防署指導の下消火及び避難訓練を行っている。今年度夜間想定避難訓練も実施を予定している。震災や水害のケースはより法人内の協力と地域との体制づくりが必要と思われるので相談していきたいと検討中である。</p>	<p>法人母体の病院である「和恒会ふたば病院」が自治会と災害時一時避難施設使用に関する協定書を締結している。訓練時には、地域の方へ案内し、訓練の協力をお願いしている。法人母体の病院では、備蓄関係を準備され、同グループからの応援体制が整っている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	鍵の管理が可能な入居者様には個人で鍵を管理して頂いたりと可能な限り人格の尊重プライバシーの確保に努めている。また、施設内研修でもプライバシー保護等研修内容に盛り込んでいる。	年間研修計画に基づいて、年1回研修を行っている。優しくを基本に、命令口調にならないように、失礼にならないように基礎・初心に戻り、日々の言葉掛けも、一人ひとりの性格やペースに合わせて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な限り本人の認知度と希望内容をすり合わせて生活に組み入れるようにしている。また入浴を嫌がる方もおり、本人の意思を尊重し入浴日を変更する等の対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	健康管理の観点から起床時間や就寝時間食事の時間等はある程度決めさせてもらっているがその他のスケジュールに関しては本人に無理を言わず一日の流れは本人に決定していただいている。1階でテレビを観たり新聞を読んだり、他の人と談笑している方もいれば、2階の自室で一人になりたい方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容の声かけ介助がいる方に関しては声をかけさせて頂いている。また服をどうしても着こむ、裏返しに着ている方にはそれとなく指摘して自尊心を傷つけないよう配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	前述した入居者への援助状況チェックリストを作成した事により、以前よりスタッフの方が一緒に何かをしようという意識が持っている。食事の準備や洗いの役割になっている方もおり一緒に準備や食事片付けができています。	外注食に頼らず、近くのスーパーへ毎日2回買い出しに行き、下準備から調理まで利用者と職員と一緒に取り組んでいる。献立に関しては、買い物時に利用者と相談して、メニューに反映している。利用者の個々の能力に応じて、調理や下膳、片付けなどして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	水分補給は毎食と9時半、15時、就寝前と 声かけを行っている。食事はその方の 食事量に合わせて配膳の量を調整して いる。糖尿病の利用者が2名おり、人工甘 味料を使用したり、主食の量を調整して いる。咀嚼力の弱い利用者は刻み食にし ている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	必要な入居者に対しては声かけしている それでも難しい方は誘導や見守り等行い 口腔状態を確認している。また3名訪問 歯科による居宅療養管理指導提供を受け ている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	適宜行っている。ポータブルトイレから トイレでの排泄に成功した利用者もい る。トイレの場所のわからない利用者には 頃合いをみて声掛けを行いトイレ誘導 を行っている。	状態に合わせてのトイレ誘導や身体状 況に応じて、ベット近くに、ポータブル トイレの設置をしている。排泄状況によ り、医師と相談して服薬などの調整をし ている。便秘予防として、ラジオ体操や 水分摂取に心掛け、なるべく自然排便を 促している。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	なるべく排泄の失敗にならず便秘の改善 が図られるよう下剤の服用量等医師と相 談しながら行っている。また運動不足や 入浴拒否による腹部への圧迫の軽減など も原因として考えられる為、体操への参 加や歩行、入浴など説明を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	どの方も入浴の声かけ自体は3日に1度 行っている。希望のある方にはなるべく 選択していただいたり、入浴拒否してい る入居者に無理強いしないよう努めてい る。	ゆっくりと入浴ができるように、週2 ～3回の午後（14：00～15：30）3人実施 している。気分転換に入浴剤の活用もさ れている。利用者の体調や入浴習慣に合 わせ、柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は決めてはいるが、それ以上部屋でテレビを観ている分には特に他者に迷惑をかけることのない場合には注意することなく見守り。昼夜逆転が見られるようなら声かけ等行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変薬や新しい薬の処方などあった場合には管理日誌や申し送り帳に記入し各自情報を確認するよう努めている。また服薬日より1週間は何か症状の変化が見られないか重点的に様子観察する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居時のお話は勿論、入居して本人から出てくる言葉を大切にしている。サービス利用の経過などは医療機関や介護施設等からいただいた情報からも経過の把握に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の悪い時以外には希望者には外出していただいている。また骨折後歩行状況が悪い入居者にはテラス部分に職員と出たりと外気浴だけでもしていただけるよう配慮している。	年度毎の行事予定表を作成され、季節毎の外出支援をされている。家族の協力を得て、外出される方もおられる。今後は、外出の頻度を増やし、利用者の楽しみを増やす取り組みを準備している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はご家族に認知症状の説明を行い紛失のリスクを理解された上で本人の安心感につながる場合には所持して頂いている。現入居者にはいない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>県外のご家族様で電話をかけて来られた場合には必ず本人に代わってもらえるよう配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>1階食堂兼リビングは二面のガラス戸から入る日差しのお陰でとても明るい雰囲気になっている。またテラスから見えるプランターに植えてある花や野菜などを眺められている入居者も多い。座っていると料理を作る音や匂いがしてくる。</p>	<p>利用者の作品や季節感が味わえる作品を壁面に飾り付けをしている。1階が共用リビング、2階が各居室であり、利用者はエレベーターを使用し、自由に行き来している。事業所内も適度な採光が入り、居心地よく生活していただけるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室が2階にあることで共用空間から切り離されたプライベート空間になっている。また1階に下りてくれば長ソファも3つあり十分リラックスし話せるようになっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物を持ちこまれている方も多くいらっしゃいます。また混乱をきたす利用者様はあまり持ち込まれてない等本人様がどういった部屋が安心できるかということを優先的に考えています。収納スペースも室内にしっかりあるので間取り以上に広く感じていただけるようです。</p>	<p>各居室は、鍵が掛けられるようになっている。鍵の管理ができる方は、個人管理をお願いしている。本人や家族と相談しながら居心地よく過ごせる快適な居住空間づくりに努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境整備作りを大事に、日々スタッフとケアを行っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふたばの家

作成日 平成29年9月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人目標は3か月毎にあるが、振り返りが出来ていない。	ホームの年間目標と毎月の目標を作り、振り返りを行う。	年度末に翌年度の目標を話し合い、毎月の目標はミーティングで決め、翌月のミーティングで振り返りを行う。	1年
2	13	昼間の避難誘導は入居者と一緒に行っているが夜間想定は職員が声掛けのみの避難誘導を行っている。	夜間想定での避難誘導は実際に行う。	年2回の消防署指導の夜間想定での避難訓練時に実際の誘導を行う。	2年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。